

情報通信審議会 情報通信技術分科会
小電力無線システム委員会 コードレス電話作業班（第1回） 議事録（案）

1 日時

平成21年12月2日(水) 14:00～15:15

2 場所

中央合同庁舎第7号館西館 1320会議室

3 出席者（敬称略、順不同）

主任：若尾（(社)電波産業会）

構成員：遠藤（サイテルセミコンダクタージャパン(株)）、大槻（京セラ(株)）、大橋（ソフトバンクモバイル(株)（代理 千葉））、荻野（インフィニオンテクノロジーズジャパン(株)）、酒井（NECインフロンティア(株)）、佐々木（パナソニック(株)）、菅田（KDDI(株)（代理 中川））、杉山（(株)OKIネットワークス）、瀬戸（(株)NTTドコモ）、中川（(財)テレコムエンジニアリングセンター）、諸橋（イー・モバイル(株)（代理 阿佐））、矢澤（富士通(株)）、安池（東日本電信電話(株)）、矢野（(株)ウィルコム）

説明者：武久（パナソニックコミュニケーションズ(株)）

事務局：竹内、浅井、金子、江尻、小幡（移動通信課）

4 配布資料

資料2009-コ作1-1	情報通信審議会情報通信技術分科会（第70回）資料	事務局
資料2009-コ作1-2	小電力無線システム委員会 運営方針	事務局
資料2009-コ作1-3	「デジタルコードレス電話の新方式」の技術的条件に関する調査の進め方	事務局
資料2009-コ作1-4	デジタルコードレス電話の新方式の提案について	事務局
資料2009-コ作1-5	新しいデジタルコードレス電話の提案概要	パナソニックコミュニケーションズ
資料2009-コ作1-6	デジタルコードレス電話新方式の御提案	京セラ
参考資料1	小電力無線システム委員会構成員	事務局
参考資料2	小電力無線システム委員会コードレス電話作業班構成員	事務局

5 議事

(1) 情報通信技術分科会での審議開始等について

事務局から資料 2009-コ作 1-1～3 に基づき説明が行われた。

(2) デジタルコードレス電話の新方式の提案について

ア 事務局から資料2009-コ作1-4に基づき説明が行われた後、平成21年12月1日現在で新方式の提案があったパナソニックコミュニケーションズ（株）及び京セラ（株）から資料2009-コ作1-5～6に基づき提案内容の説明があり、次のとおり質疑応答があった。

- (ア) パナソニックコミュニケーションズ(株)が提案するDECT準拠方式について
- (若尾主任): 資料2009-コ作1-5の3ページの世界市場販売台数と無線方式別比較の表で、DECTシェアの矢印はどこを指しているのか。
- (佐々木構成員): オレンジの47%を指している。
- (若尾主任): 資料2009-コ作1-5の5ページの図を分かりやすく修正願いたい。中央の青い親機のようなものは現行方式の親機にあたるものか。
- (佐々木構成員): 広義の意味で親機となるものである
- (矢野構成員): 資料2009-コ作1-5の8ページのLongSlotとDoubleSlotの違いと9ページの双方向通信(非対称)について想定されるアプリケーションに関して説明願いたい。
- (武久説明者): LongSlotとDoubleSlotはGuard-Spaceの時間が異なっており、当初DoubleSlotのみのところ産業界からの要望によりLongSlotが新たに追加となったもの。2点目は、通信方式がTDDなので複数の通信チャネルを束ねて使用し、動画アプリケーションの場合は256kbps程度と想定している。
- (若尾主任): DoubleSlotの図の点線がずれているので修正願いたい。非対称で使うチャネルは他の人は使えないのか、それとも空いているスロットは他の人も使えるようにキャリアセンスすることになるのか。
- (武久説明者): キャリアセンスして空いているチャネルを使うことになる。
- (若尾主任): スロット毎にキャリアセンスをすることになるのか。
- (武久説明者): 送信する時間、周波数の両方にキャリアセンスする。
- (事務局): IPv6に対応しているか。モニタリング等の物と物との通信を行うことも考えているのか。
- (武久説明者): 無線区間はIPを特に規定していない。物と物との通信に関してはスマートメーターのようなものも将来的に可能と考えている。
- (杉山構成員): 非対称通信の場合の平均電力があがると思うが、その場合、小電力無線局の平均電力10mWとの関係はどうか。
- (事務局): 現行方式ではチャネル当たり10mW以下となっている。
- (若尾主任): 例えばFTTHをDECTの無線機に接続するとパソコンや電話が全て無線でできるようになるのか。
- (安池構成員): 将来的にはそうなるかもしれないが、現行ではホームゲートウェイの機能を持っているDECTが市場に出していない。
- (遠藤構成員): DECTに関して欧州で増えているのは資料2009-コ作1-5の4ページのコンセプトのものである。IPで終端した箱の中にDECTの親機の機能を持たせ、その先にDECTの子機を接続することであたかもIP電話として使用することや、2.4GHz帯の無線LAN機能を持たせたものも出てきている。
- (若尾主任): そうなるとPCカードにDECT機能を持たせても良いのではないのか。
- (遠藤構成員): 高速化が求められる通信ではDECTの能力は不足している。比較的低いデータの通信で満足できるアプリケーションに向

いている。

(若尾主任)：いま提案のあったものはNG-DECTといわれるものか。

(武久説明者)：そのとおりである。

(イ) 京セラ(株)が提案するsPHS方式について

(若尾主任)：資料2009-コ作1-6はXGPと諸元が似ているものか、違うものか。

(大槻構成員)：sPHSは音声通信、XGPはデータ通信をターゲットとしているがOFDM方式という点では同じである。

(若尾主任)：資料2009-コ作1-6の4ページでは現行方式で通信とあるが、新方式とのデュアル方式を想定しているのか。

(大槻構成員)：将来的に出来たらよいという趣旨のものである。

(矢澤構成員)：DECTはコンポーネントの共通化という話があったがsPHSはどうか。

(大槻構成員)：OFDM方式の点でWiMAX、LTEと共通化できる部分があると考えている。

(諸橋構成員)：sPHSはどこかで標準化されているのか。干渉検討の際に指針
(代理:阿佐) となる値はあるのか。

(大槻構成員)：標準化はこれから。干渉検討の際には提案している値で干渉検討を行い、検討作業に支障のないようにしたい。

(矢澤構成員)：4キャリアで4チャンネルの最大16通話が可能か。

(大槻構成員)：資料2009-コ作1-6の8ページのとおり、標準音声では1つのボックスで4通話チャンネル、2.4M(1キャリア)の中でボックスが8ペアあるので、4×8で32音声通話となる。2.4Mが4つ(4キャリア)あるので全部並べると128チャンネルになる。

(若尾主任)：今の話は親機が共通の場合にそれだけ使えるとの話か。

(大槻構成員)：そのとおり。

イ 今後、提案のあった2方式に関して検討を進めることとし、新たな提案があった場合は追加して審議することです承された。

(3) その他

事務局から、次回作業班を12月11日(金)14時から開催する旨の説明があった(場所:中央合同庁舎第7号館西館 1320会議室)。